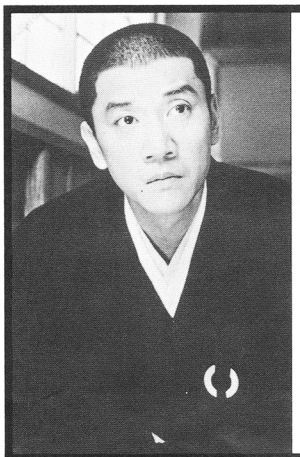

太閤秀吉が最も恐れた男
名作「天平の甍」から10年……
ふたたび、日本文化の原点を衝く
井上靖、熊井啓の黄金コンビ！
戦国乱世、茶で刀に挑んだ男たちがいた
千利休
本覚坊遺文
熊井啓監督作品
井上靖 原作
（講談社刊「本覚坊遺文」より）
千利休 三船敏郎
古田織部 加藤剛
太閤秀吉 芦田伸介
吉澤 東野英治郎
東陽坊 内藤武敏
大徳屋 牟田悌三
千宗旦 川野太郎
山上宗二 上條恒彦
織田有楽斎 萬屋錦之介
本覚坊 奥田瑛二
千利休四百年遠忌特別作品
表千家
後援
裏千家
武者小路千家
製作 西友
配給 東宝
東宝
SEIYU
99573-202

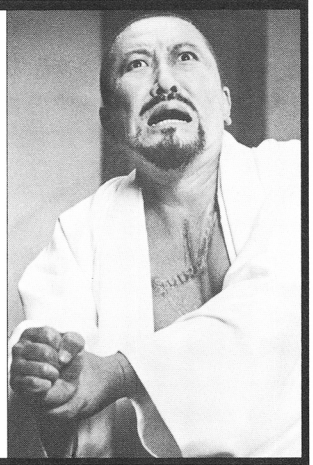
解説



千利休は1591年2月28日、太閤秀吉の命により自刃した。利休はなぜ秀吉の怒りを買ったのか。そしてなぜ秀吉の許しを乞わなかったのか。死の直前、利休は茶を点て続けた。茶を点てることだけが、茶湯者の全てであるかのように。その事実だけが、利休の愛弟子・本覚坊や、織田有楽斎、古田織部などの高弟に残された。この「千利休―本覚坊遺文」は、その利休の最期の〝心〟を、利休の門弟たちが探っていくというストーリーをもっている。だがこの作品は決して単なる謎解きサスペンスではない。利休の遺した〝心〟を知りたいと切望する門弟たちの、師に対する思いを、熱く綴った心のドラマなのである。

佗茶――。千利休が大成した佗茶はまた、それ以後の日本人の〝心〟に大きな影響を残している。日本人の美に対する感覚や礼儀作法に至るまで、全てこの佗茶の美学が源泉となっている。ドラマの様々な局面で、この佗茶の〈原点〉が美しく描かれていくのを観る時、目の潤むような感動に全身を揺さぶられることだろう。利休が〈刀〉から守り続けた〈佗茶〉とは、何ものにも侵されない、自らと宇宙の調和に満ちた心の幸福であったのである。

原作は井上靖の82年度日本文学大賞受賞作『本覺坊遺文』。監督は前作「海と毒薬」('86)でベルリン映画祭審査員特別賞ほか日本映画界の各賞を総なめした熊井啓。「茶室〟〝光〟〝釜の音〟そしてそこでの〝茶人たちの会話〟が、全体として一つの室内楽になるよう心がけたい」という監督の意図を実現するために、精鋭のスタッフも集まった。撮影・栃沢正夫、照明・岩木保夫、美術・木村威夫、音楽・松村禎三ら、数十年にわたり日本映画の伝統を守ってきたスタッフたちである。そして脚本は、世界の巨匠・溝口健二の右腕的存在だった依田義賢。試写を見た外国人評論家からは、「黒澤・溝口・小津らが作り上げた日本映画の伝統が、見事に生きている日本映画久々の傑作」という声も上がっている。

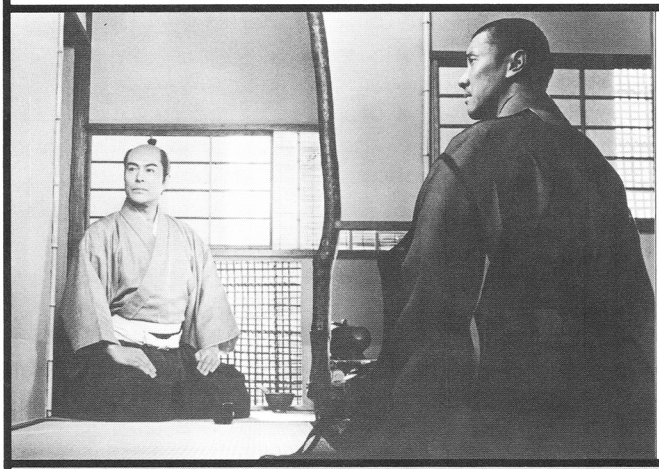


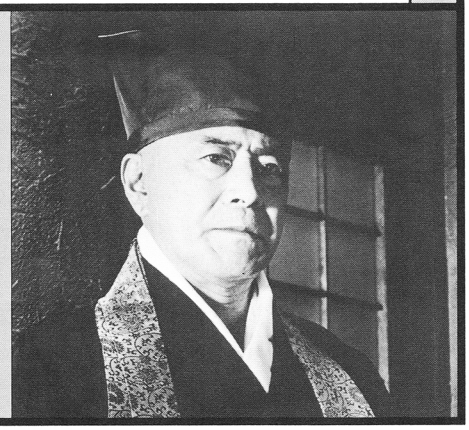
そして、配役面では映画史上ほとんど例のない男優のみの出演という異色作となっている。「海と毒薬」に引き続き熊井作品の主役を勤める奥田瑛二。対するに、三船敏郎(「黒部の太陽」'68)、加藤剛(「忍ぶ川」'72)ら、熊井監督の珠玉作品に出演経験をもつ映画界を代表するスターたち。そこに、熊井作品初体験、本格的に活動再開を始めた萬屋錦之介も加わった。秀吉の心胆を寒からしめる三船利休の力強さ、利休七哲のひとり織田有楽斎のイメージを見事な演技力で表現している萬屋有楽斎の情熱、傾き大名と呼ばれたほどモダンであった古田織部の姿を彷彿させる加藤織部の知性。そして、戦国乱世とは異なる佗茶の境地に達したかにみえる奥田本覚坊の静けさ。さらには権勢をほしいままにする秀吉を演じる芦田伸介の見事な造型。戦国乱世を身をもって生き壮絶に死んだ山上宗二に扮する上條恒彦の迫力。四百年前の茶人たちが、それぞれの出会いの中で息づいているのを、画面全体から感じることができるだろう。

茶人たちの茶の湯に賭けた夢。その夢の色の諧調に見事に統一されたこの「千利休―本覺坊遺文」こそ、千利休四百年遠忌に際し、観る者の涙を誘いながら、真の利休像と世界に誇る日本美の真髄を伝える感動作である。

物語

本覚坊と織田有楽斎。二人は利休が太閤秀吉から死を賜ってから、一方は慎ましくその喪に服し、一方は政権移行を巧みに乗り切るという点で、生き方は異なっていた。しかし、賜死事件の真相を探ることで、茶人としての生き方を確立しようとする点では同じだった。その二人が、利休の死後、27年目に初めて出会う。「利休はなぜ死んだのか」――二人は様々な会話を通じて、その真相に近づいていく。そして、利休と同じく権力者の圧力を前に自らの死をもって応えた山上宗二、古田織部の生き方を検証するうち、死地に赴く武将にみそぎを施す乱世の茶をまっとうするために、利休を含めた三人は、互いに死の約束を取り交わしたのだ、という確信に至る。だが、利休最期の心境については、いまだ不明の点が多かった。そして有楽斎が死ぬ直前、病床を訪れた本覚坊は、自らがついに夢に見た利休の心境を、秀吉・利休の最後の茶事に託して、有楽斎に語り始める……。





千利休

本覺坊遺文

本覚坊○奥田瑛二
千利休○三船敏郎
織田有楽斎○萬屋錦之介
古田織部○加藤　剛
太閤秀吉○芦田伸介
山上宗二○上條恒彦
東陽坊○内藤武敏
古溪○東野英治郎
千宗旦○川野太郎
大徳屋○牟田悌三
表千家
後援○裏千家
武者小路千家

製作総指揮○高丘季昭
製作○山口一信
脚本○依田義賢
撮影○栃沢正夫
照明○岩木保夫
美術○木村威夫
音楽○松村禎三
録音○久保田幸雄
編集○井上　治
製作補○大場正弘
生花○川瀬敏郎
監督補○原　一男

東宝　SEIYU

題字○松本筑峯